

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：23101

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K19207

研究課題名(和文) 刑余者のヘルスケアニーズ

研究課題名(英文) Health Care Needs of Released Inmates

研究代表者

船山 健二 (Funayama, Kenji)

新潟県立看護大学・看護学部・講師

研究者番号：70796127

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：全国の地域生活定着支援センターの長を対象に実態調査研究を実施しました。その結果1. 刑務所医療の不適切な対応、2. 刑務所出所者の受療態度(医療依存と医療拒否)、3. 地域の保健医療従事者の刑務所出所者に対する、無知・偏見・差別、4. 刑務所出所者の入院受け入れ調整の困難、5. 刑務所出所直後の受診費は生活保護からの拠出が最多であること、6. 刑務所出所者をひとりの地域住民として生活者と捉えた健康維持・増進に期待が寄せられていることを明らかにしました。

また、インタビュー調査を通じ「身寄りがない刑務所出所者を看取った障害者グループホーム施設長の経験」を明らかにしました。

研究成果の学術的意義や社会的意義

刑務所出所者が置かれている社会的状況について、刑務所出所者のヘルスケアニーズを通じて、捉えることができました。共生社会の実現に向け、生存権保障や健康の社会的決定要因(SDH)の観点からも学術的意義のある研究です。また、刑務所出所者に焦点化した研究知見の蓄積は、公衆衛生や看護倫理の発展への寄与にとどまりません。本研究知見は、実務レベルにおいても、処遇が難しい刑務所出所者への対応に示唆を与えることで、その支援を通じ、広く保健医療福祉従事者による保健医療福祉の支援の質向上が期待されます。

研究成果の概要(英文)： We conducted a fact-finding survey of the heads of community life settlement support centers nationwide. As a result, 1) inadequate treatment of prison medical care, 2) attitude of people released from prison (medical dependency and refusal of medical care), 3) ignorance, prejudice, and discrimination by community health care workers against prison type prisoners, 4) difficulty in coordinating the admission of prison releases, 5) the largest contribution from public assistance immediately after release from prison, and 6. He clarified that there are high expectations for the maintenance and promotion of health of people who have been released from prison as residents of the community.

In addition, through an interview survey, he revealed "the experience of the director of a group home for persons with disabilities who took care of a prison release who had no relatives."

研究分野：精神保健看護学・フォレンジック看護

キーワード：刑務所出所者 ヘルスケアニーズ 身寄りのない 看取り 触法障害者 健康の社会的決定要因(SDH) 看護倫理

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2016年12月施行の「再犯の防止等の推進に関する法律」に基づく、再犯防止推進計画では、刑務所出所者等の保健医療福祉サービスの利用促進等が、重点課題の1つに掲げられた。刑務所出所者に対する福祉分野の研究知見や満足度(全定協,2017)は明らかとなっているが、刑務所出所者のヘルスケアニーズに関する知見は、明らかとなっていなかった。そこで、本研究では、刑務所出所者のヘルスケアニーズに焦点化し、刑務所出所者本人へのインタビュー、刑務所出所者支援従事者に対する質問紙調査及びヒアリング、刑務所出所者へ医療を提供している医療従事者へのヒアリングを実施する計画であった。これら～を総括し、刑務所出所者のヘルスケアニーズの全体像を明らかにすることを目的に本研究を計画した。刑務所出所者のヘルスケアニーズを明らかにすることは、具体的な支援策の検討につながり、その支援は、刑務所出所者個人の健康に寄与することにとどまらず、地域社会における包括的な支援を通じ、犯罪減少の効果も期待され、広く一般国民の安全な暮らしに貢献し得る研究であると位置づけ本研究に着手した。

### 2. 研究の目的

本研究は、刑務所出所者のヘルスケアニーズを明らかにすることが研究目的である。

### 3. 研究の方法

本研究の研究期間である2020年度～2023年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、本研究活動の遂行にも多大な影響が生じた。

刑務所出所者本人へのインタビューについては、感染対策の観点から、対面インタビューの自粛が余儀なくされ、オンラインに不慣れな刑務所出所者も多く、また、要配慮個人情報を扱う観点から断念した。

刑務所出所者支援の従事者に対する質問紙調査及びヒアリングについては、当初計画の通り遂行した。

刑務所出所者へ医療を提供している従事者へのヒアリングについては、上述の質問紙調査により、医療機関の医療従事者に対するニーズよりも、地域における行政保健師に対するニーズが確認されたため、行政保健師に対するヒアリングに変更し実施した。

#### (1) 刑務所出所者支援の従事者に対する質問紙調査

刑務所出所者のヘルスケアニーズへの対応状況について、その実態と課題を明らかにすることを目的に、量的記述的研究デザイン(実態調査型、事実発見型)として、研究者所属機関の研究倫理審査を受審し承認を得た。全国47都道府県に設置された48の地域生活定着支援センター長を対象に、全数調査法による郵送法を用いた、無記名自記式質問紙調査を2020年9月14日～同年10月9日までの間に実施した。調査項目及び回答方法は、刑務所医療の適切さ(適切だと思う・あまり思わない・全く思わない:3件法)、医療を求める態度(医療を過剰に求める、医療を拒否する刑務所出所者について、各々、非常に多い・多い・少ない・いない:4件法とその要因に関する記述)、医療機関の診療受け入れ状況(16パターンの状況を示し、各々の状況について、受診が容易・やや困難・調整困難・特定の医療機関のみが対応・受入拒否・該当事例なし:6区分への回答と自由記述)、診療費支払いの拠出に関する活用頻度の順位付け(生活保護、後期高齢者医療制度を含む国民健康保険、無料低額診療、更生援助金、その他については、種別記載を求めたうえでの順位付け)、地域の行政保健師に望むこと:自由記述、医療機関の看護師に望むこと:自由記述、厚生労働省から発出されている通知や事務連絡の活用状況:7肢択一。

の通知や事務連絡は、「違法行為をした障害者・高齢者のうち福祉的支援を要した真に支援を望む人への支援について」、「身元保証人等がないことのみを理由に医療機関において入院を拒否することについて」、「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン」の3種である。

#### (2) 刑務所出所者支援の従事者に対するヒアリング

刑務所出所者に対する福祉支援事業を行っている甲信越地方の1法人及び関西地方の1法人の各事業所を視察し、管理者及び支援従事者から、ヘルスケアニーズを含めた、刑務所出所者支援の現状と課題について、ヒアリングを複数回実施した。

#### (3) 行政保健師に対するヒアリング

人口6万人に満たず、再犯防止推進計画の策定段階にある市の保健師に対し、グループフォーカスインタビュー形式による、ヘルスケアニーズを含めた、刑務所出所者への対応の現状と課題について、ヒアリングを実施した。

#### (4) 刑務所出所者の支援者に対するインタビュー

上述の(1)~(3)の研究活動を通じ、「身寄りのない刑務所出所者の看取り」を経験した障害者グループホームの施設長と出会い、身寄りがない刑務所出所者を看取った障害者グループホーム施設長の経験を明らかにし、その経験に対する考察を通じ、刑務所出所者という属性を有する対象の理解に向けた示唆を得ることを目的とした、質的記述的研究(事例研究法)について、研究者所属機関の研究倫理審査を受審し承認を得た。身寄りがない刑務所出所者を看取った障害者グループホームの施設長を研究対象とし、対面による半構造化面接を実施した。

#### 4. 研究成果

本研究における、一連の研究活動を通じ得られた知見について、看護系学会において5題の報告等を実施した。また、研究知見の普及啓発のため、看護管理者向け雑誌へ2編、精神科看護従事者向け雑誌へ1編、産業保健従事者向け雑誌へ6編の記事を執筆した。福祉支援従事者向け研修会を5回実施、オンラインセミナー用動画1編作成、刑務所出所者支援の専門性を有する保健医療福祉従事者向け、学術書の分担執筆1編、同研修会12回実施。看護学テキストの分担執筆2編、大学院・大学等のゼミナールや講義5回を通じ、研究成果の還元に努めた。

##### (1) 刑務所出所者支援の従事者に対する質問紙調査

この研究では、質問紙調査票を36件(回収率:75.0%)回収し、有効回答数34件(有効回答率:70.8%)であった。結果から以下の6点が明らかとなった。

全国の地域生活定着支援センター長は、刑務所医療について「適切と思わない」が73.5%を占めていた。

刑務所出所者の受療態度には、医療を過剰に求める者、医療を拒否する者が存在し、その理由は多岐にわたっていた。

地域の保健医療従事者に、刑務所出所者に対する無知・偏見・差別が存在していた。

刑務所出所者の入院受け入れ調整には、困難さが認められた。

刑務所出所直後の受診費は、生活保護により拠出されることが最多であった。

行政保健師に対し、刑務所出所者をひとりの地域住民として、生活者と捉え、その健康維持・増進に期待が寄せられていた。

- 船山健二.(2022). 刑務所出所者のヘルスケアニーズ. 日本フォレンジック看護学会誌. 8(2). pp19-33.

##### (2) 刑務所出所者支援の従事者に対するヒアリング

ヒアリング実施時期により、新型コロナウイルス感染症対策に関することや、支援者の育成、支援者支援の必要性、刑務所出所者個々の対象理解、刑務所出所者のいわゆる問題行動に対する対応等、各事業所のそれぞれの立場(訪問看護師、生活支援員等)から、多岐にわたる課題が示された。現場の支援者と研究者との対話を通じ、現場が抱える課題に対する研修会等を通じた対応を図り、その内容について検討し、学会等で報告を行った。こうした一連の研究活動を通じ、新たな研究課題として、(4)の研究実施に至った。

##### (3) 行政保健師に対するヒアリング

ヒアリングに先行し、研究者から「高齢者や知的障害者による犯罪・触法行為の背景や現状」及び「薬物依存症と回復支援その現状」に関する講義と、地域生活定着支援センター等による刑務所出所者支援の歴史・現状・支援提供体制等について、情報提供を行った。その後、保健師活動における、刑務所出所者等(触法ケースや医療観察法対象者を含む)への対応状況や困難さ、課題等について、その実情をご教示いただいた。

##### (4) 刑務所出所者の支援者に対するインタビュー

身寄りがない刑務所出所者を看取った障害者グループホーム施設長の経験について、半構造化面接を実施し、同インタビューデータを質的帰納的に分析し、5つの経験が明らかとなった。

- 現在、看護系学会に論文投稿し、査読結果待ちの状況にある。

上述の(1)~(4)を踏まえ、刑務所出所者が自身のヘルスケアニーズをどのように認識しているのかを明らかにすることが課題と言える。

また、刑務所出所者が自己選択や自己決定できる支援のあり様の検討とともに、刑務所出所者の支援に携わる支援者に対する、支援方法や支援体制の検討も今後の課題として挙げられ、保健医療福祉関係者に対する、刑務所出所者が抱えているヘルスケアニーズを含めた課題に関する知識の普及啓発とともに、直接支援にあたる支援者に対し、専門的知識・技術を継続的に学ぶことのできる支援が望まれる。これらを通じ、刑務所出所者のヘルスケアニーズに応え、SDH(Social Determinants of Health: 健康の社会的決定要因)の改善に取り組みに、健康の公平性の達成(WHO, 2008)を図ることが必要である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 船山健二	4. 巻 17巻2号
2. 論文標題 身体的・心理的・社会的なケアを提供するフォレンジック看護の実践と今後の展望	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Nursing BUSINESS	6. 最初と最後の頁 72-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 船山健二	4. 巻 17巻3号
2. 論文標題 あなたは看護師として何をとらえ、何を考え、どのようなまなざしを向け行動しますか？身寄りなし・お金なし・住まいなしの方が自分の医療機関に助けを求めてきたら	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Nursing BUSINESS	6. 最初と最後の頁 74-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 船山健二	4. 巻 8巻
2. 論文標題 刑務所出所者のヘルスケアニーズ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本フォレンジック看護学会誌	6. 最初と最後の頁 19-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 船山健二	4. 巻 7巻2号
2. 論文標題 矯正施設における加害者への治療教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本フォレンジック看護学会誌	6. 最初と最後の頁 125-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋康史、市川岳仁、船山健二、安田恵美	4. 巻 35巻
2. 論文標題 薬物依存の課題を抱える出所者への地域支援に関する研究 - 地域生活定着支援センターの取り組みから -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋市立大学大学院人間文化研究科 人間文化研究	6. 最初と最後の頁 35-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 船山健二
2. 発表標題 拡大自殺：その言葉の用いられ方と意味
3. 学会等名 日本フォレンジック看護学会第9回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 船山健二
2. 発表標題 看護基礎教育テキスト、看護系雑誌からとらえた「受刑者の看護」
3. 学会等名 日本フォレンジック看護学会第8回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 船山健二、五十嵐愛子
2. 発表標題 多様化する家族のあり様と看護倫理
3. 学会等名 日本看護倫理学会第13回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 舩山健二、鈴木江三子、神垣一規
2. 発表標題 矯正施設における加害者への治療教育
3. 学会等名 日本フォレンジック看護学会第7回学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 小西 恵美子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 292
3. 書名 看護倫理（改訂第3版）	

1. 著者名 金澤真理、高橋康史、安田恵美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 212
3. 書名 再犯防止から社会参加へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------